

濟々鬻高生が水俣病学ぶ

「問題は進行形」実感



水俣市立水俣病資料館で島田竜守館長（右）から被害を拡大させた行政の責任について話を聞く濟々鬻高の生徒たち

文部科学省のスーパーグローバルハイスクール(S

GH)に指定されている濟々鬻高の1年生約60人が28

日、水俣病や環境問題を学ぶため水俣市の市立水俣病資料館を訪れた。水俣病の語り部で認定患者の緒方正実さん(58)の講話や、島田竜守館長の資料説明などがあり、生徒たちは「公式確認から60年が過ぎた現在も、進行形の問題」と実感していた。

水俣病で破壊された家族や地域のほか、差別や偏見に苦しんだ経験を語った緒

方さんは「実践できる教訓を見つけて、学校や地域で役立ててほしい」と呼び掛けた。島田館長は「行政が被害実態を隠したため被害が拡大した」といった事実を紹介した。

矢野祝子^{のぶこ}さん(15)は「相手の状況や気持ちを考えるという大事なことを、今後の学習に生かしたい」と話した。

SGHは国際的に活躍す

る人材育成が目的。濟々鬻高は指定を受けた2014年度から、授業の一環として1年生が水俣で研修を続けている。(河野潤一郎)